

群 教 セ	G15 - 01
	令 2.274集
	高-キャリア

令和 2 年度長期社会体験研修報告書

研修先：石川建設株式会社

長期社会体験研修員 篠木 秀明

I 研修内容

1 研修先の概要

研修先の石川建設株式会社（以下、石川建設）は、昭和 15 年の創業以来、総合建設業として各種建築物、土木インフラ施設等幅広い分野で活躍している。現在太田市に本社を置き、関東一円を営業基盤としている。日本建設業連合会主催の BCS（Building Contractors Society）賞を受賞した太田市美術館・図書館は有名で、公共工事においては、国や県から毎年表彰を受けている。

会社のビジョンを「～建ててからが本当のお付き合い～お客様・社員・協力業者・地域の皆様から『石川建設で良かった』と思われる会社を目指す！」としていて、質の高い建築物や工作物を造ることだけではなく、お客様を中心に、工事に携わる全ての人を大切にしていることが伺える。その具体策として「顧客満足フロー」「地域奉仕活動」「働き方改革」を掲げ、「顧客満足」「地域満足」「社員満足」を追求し、企業価値の向上を目指している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月1日～4月30日】（研修場所：本社、工事現場、各支店）

新入社員対象の研修に参加して、企業理念や会社の概要を理解し、社会人としての心構えやビジネスマナーについて学んだ。安全管理研修では、想定される危険から安全を確保するための危険予知演習を行い、実際に現場へ出るための訓練を受けた。その後、実際の現場や支店を回り石川建設の現状を把握した。

(2) 管理本部研修【5月1日～3月26日】（研修場所：本社、ビエント高崎他）

学生向けの合同企業説明会への同行、会社説明会の準備やインターンシップ活動の受け入れ業務を行った。また、高校生の求人活動に参加した。今まで学校側での企業対応を行ってきたが、企業側の立場で求人活動を経験することができた。

(3) 工事本部研修【5月1日～11月30日】（研修場所：本社、工事現場、各支店）

安全・品質部に所属し、各現場への安全パトロールに同行した。現場経験豊富な社員が、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底がされているか、KY（危険予知）活動がどのように行われているかなどを確認し、安全かつ快適に作業ができるように指導や支援を行っていた。また、本社では各種データの整理や現場で必要な物資の補給業務を行った。

(4) 工務本部研修【12月1日～3月26日】（研修場所：本社、工事現場）

設計施工業務フローを理解し、意匠図や構造図、設備図など設計図面の読み取り方や作図方法について学んだ。また、設計図面通りの材料となっているか、コンクリート受入検査や鉄骨の製品検査などの立ち合いにも参加した。

(5) CSS (Customer Satisfaction Service) 本部研修【8月】（研修場所：本社、工事現場）

既存建物の改修工事を行うための予算を出すため、現地調査に同行した。建物の調査方法を学ぶことができた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

石川建設での研修を通し、先の見通せない未来を生き抜くためには、どの職種においてもコミュニケーション能力が重要になると思い、テーマを「未来を生き抜くために～総合建設業の体験から

学んだこと～」とした。この資料を見た高校生が、コミュニケーション能力の重要性について理解し、学校生活の中でその能力を身に付けることができる構成とした。また、総合建設業について知り、興味をもつことができる内容とした。

(2) 実践の概要（県立館林商工高等学校）

授業実践

題材名 「企業が求める『人財』～学校生活を振り返ろう～」（特別活動「ホームルーム」）

対象 建築科第2学年 27名

石川建設での研修において、適切なコミュニケーションのとり方は働く上で重要なことだと改めて感じたため、それを体験できるペアワークを行った。このペアワークは、相手に自分の思いを伝えることの難しさや、受け手側については態度の重要性を感じられるものとした。また、企業が求める「人財」（石川建設では人材ではなく人財としている）について考える場面を設定し、生徒自ら考えた「人財」になるために、今後の学校生活でできる具体的な目標を立て発表することとした。これにより、学校生活を振り返ることができる内容となった。

II 研修成果

1 工事本部での研修について

安全パトロールに同行した際、各工事現場を見ることができたが、どの現場も5Sの徹底がなされていた。これが作業の効率化や、ミスの防止、品質向上にもつながると感じた。今後の職場環境を整えるための一助としたい。また、KY活動の一つである「危険の見える化」を取り入れていきたい。実習の授業では、危険な作業を伴う場面もあるため、言葉で説明するだけでなく、危険が目で見分けるように工夫していきたい。

2 工務本部での研修について

コンクリートの各種試験や鉄骨の製品検査等について、実際にどのように行われているのかを体験することができた。精度の高いものをつくるための試験を参考にして、今後の授業を行っていきたい。また、コンクリート工事や鉄骨工事など各種工事の詳細部を見ることにより、知識が深まった。今後の授業では、本研修で得た根拠を基に、今まで以上により説得力をもった教科指導を行っていきたい。

3 キャリア教育実践について

ペアワークでは、相手に思いを伝える伝達力と、相手が話しやすいように聴くという傾聴力が、適切なコミュニケーションにつながると実感させることができた。このような活動を通し、コミュニケーション能力を高めるためには、集団生活の中での対話等で実践し、積み重ねていくことが重要であると感じた。授業や学校行事、学校生活全般で、話し合い活動や発表する場面を多く取り入れ、実践していきたい。

III まとめ

キャリア教育の視点もち本研修に臨んだが、企業での仕事において、また社会人として一番必要な能力は、コミュニケーション能力だと感じた。総合建設業では、社員同士はもちろん、依頼主や協力業者、近隣住民など多くの人と関わり仕事を遂行するため、この能力は特に重要なのだと思う。

また、各種工事について、実際に直接見て体験することにより、教科書だけでは分からない細部も理解することができた。工業科の教員として、自分自身のスキルアップにもつながった。

今回の研修でお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、学んだことを進路指導や学習指導、組織運営など全ての教育活動に生かしたい。

（担当指導主事 贄田 秀樹）